

中 期 収 支 計 画

1 一般会計負担の見直し

(1) 市民病院

ア 基本的な考え方

独立採算を本来の姿とする地方公営企業として、徹底した収支改善を図るとともに、市立病院が果たすべき役割や機能の観点、中長期的に見た経営の安定の観点などから、市立病院の経営に対する一般会計負担を見直します。

(ア) 市民病院

経営の状況

市民病院は、平成3年度に終了した再整備事業により病床数が拡大し、診療収入の伸び悩み、減価償却費や企業債償還に係る費用の増大等により、急激に収支が悪化しましたが、その後、経営改善に努めたことから、徐々に好転し、平成15年度決算においては経常利益を計上するに至りました。

今後は、さらなる経営改善の努力のうえに、経常収支の均衡を維持しつつ一般会計負担の縮減を図っていくことが重要な課題となります。

見直しの考え方

市民病院では、政策的医療としての救急医療に早くから取り組み、実績をあげてきましたが、そのための一般会計繰入金は、現在では同様に救急医療に取り組んでいる地域中核病院等に対する補助金と比べて、多額となっています。また、がん検診センターの運営や、民間医療機関には補助等を行っていない高度医療機器の運営等に対しても多額の繰入れを行っています。

これらの政策的医療等に対する繰入金について、地域中核病院等への補助金・委託料などとのバランスを考慮しつつ、適正化・明確化を図るとともに、市立病院の役割として行う地域医療全体の質向上のための取組に対して、必要な経費を繰り入れていくものとします。

経常収支等の状況

単位 = 百万円


	市 民 病 院		
	14年度決算	15年度決算	16年度見込
経 常 収 支	488	296	338
繰入金を除く経常収支	3,082	2,247	1,958
資 金 収 支	126	522	594
累 積 資 金 不 足 額	-	-	-
一 般 会 計 繰 入 金	2,980	2,926	2,637
収益的収支繰入金	2,594	2,543	2,296
長 期 借 入 金	-	-	-
計	2,980	2,926	2,637

(注1) 資金収支は、長期借入金による資金の補填を見込まない数値で、収益的収支及び資本的収支の合計

(注2) 一般会計繰入金は、収益的収支及び資本的収支の合計

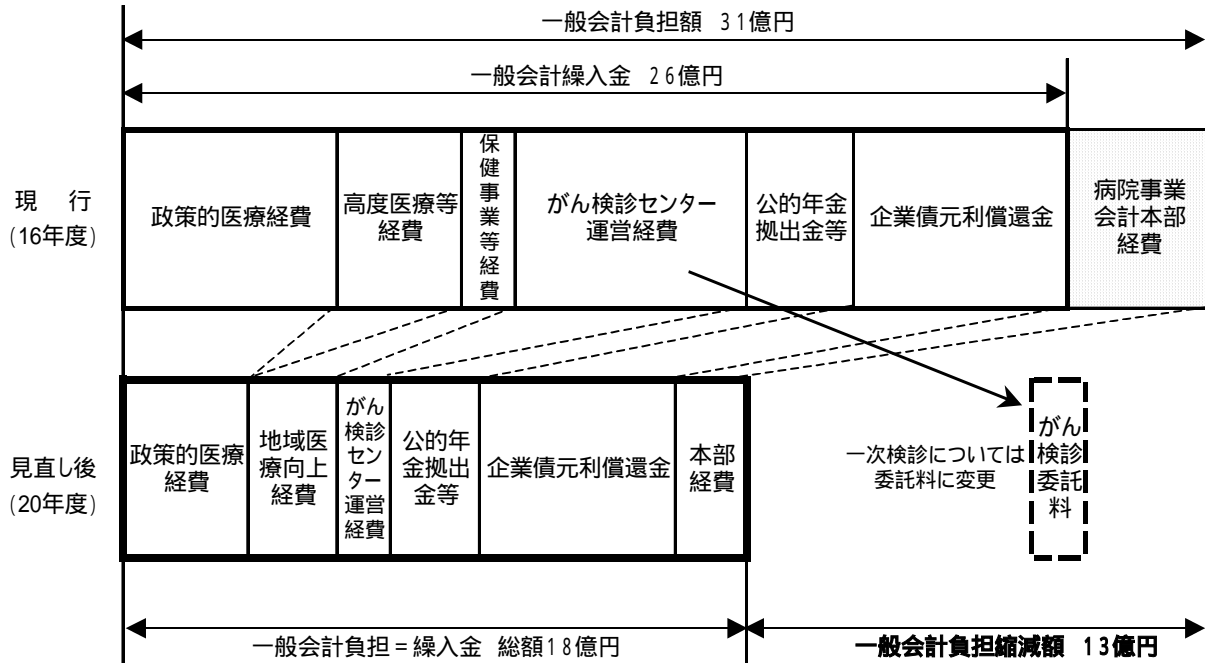
一般会計負担の縮減

市民病院、脳血管医療センター合わせて、約15億円の一般会計負担を縮減します。

 は、一般会計繰入金。

 は、繰入金以外の一般会計負担で、網掛け部分は、一般会計により直接執行しているもの。

【 市 民 病 院 】



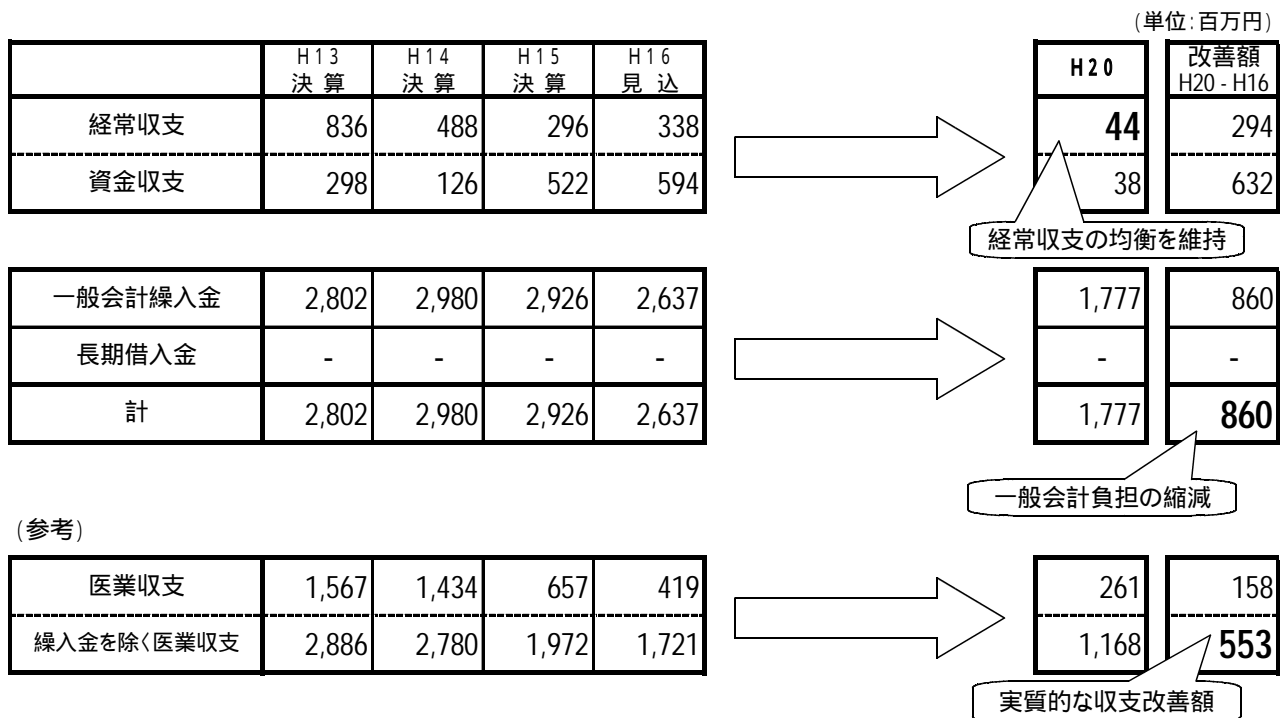
* 平成16年度の病院事業会計本部経費については、病院事業の管理等に直接要する経費のほか、衛生局における一般管理費のうち病院事業の管理のために要しているもの（案分により算出）などを含めて試算したもの（以下同じ）。

2 中期収支計画

(1) 市民病院

繰入金の見直しにより一般会計負担の縮減を図りつつ、経常収支の均衡を維持します。

市民病院では、平成20年度において、平成16年度と比較して**約9億円の一般会計負担の縮減**を図りながらも、実質的な収支改善額を示す「繰入金を除く医業収支」において、約6億円の改善を達成することで、**経常収支の均衡を維持**します。

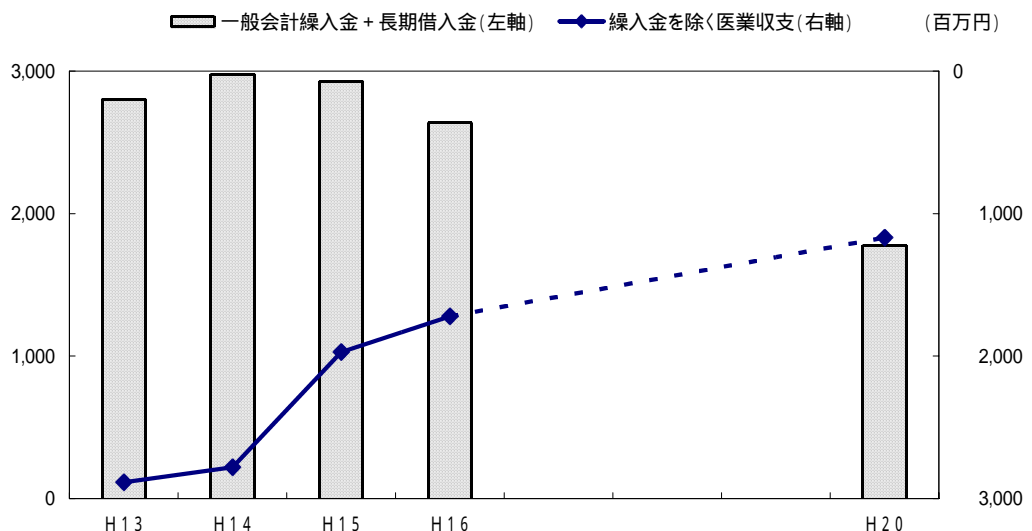


(参考)

医業収支	1,567	1,434	657	419		261	158
繰入金を除く医業収支	2,886	2,780	1,972	1,721		1,168	553

平成20年度の医業収支は、地方公営企業法の全部適用以降に発生する本部経費を除く。

平成20年度の繰入金を除く医業収支は、本部経費及びがん検診委託料を除く。



(参考) 中期収支計画における主な経営指標

この指標は、収支計画を試算するに当たって、積算の基礎としたものです。病院においては収支計画の実現に向けて、これらの指標を参考としつつ、改善のための努力を行いますが、全体としての収支目標の達成を最優先するものとし、個々の指標の達成については、例えば、病床利用率の向上に代えて診療単価の向上を図るなど、柔軟な対応を図るものとします。

市民病院

		13決算	14決算	15決算	16見込		20年度
入院	一日平均患者数	543人	542人	538人	550人	→	540人
	一般病床利用率	90.5%	90.3%	89.6%	91.7%		90.0%
	入院診療単価	37,210円	37,151円	38,207円	39,715円		41,855円
外来	一日平均患者数	1,751人	1,541人	1,516人	1,470人	→	1,380人
	外来診療単価	7,378円	7,876円	8,396円	8,887円		9,367円
医業収益に対する人件費率		59.0%	59.9%	56.8%	55.4%	→	54.9%
医業収益に対する材料費率		25.1%	24.6%	24.1%	24.6%		22.8%

< 病院事業会計用語説明 >

経常収支・・・・・・・・・・通常の事業活動によって発生する収益・費用の差し引きであり、企業の経営状態を表します。

資金収支・・・・・・・・・・事業活動に必要な運転資金の増減を示す指標です。

医業収支・・・・・・・・・・経常収支のうち、医療活動に伴う収益・費用だけを抜き出して算定したものであり、病院の本来業務である医療活動における収支を表します。

繰入金を除く医業収支・・・・医業収支から繰入金を除くことによって実質的な収支の状況をとらえることができます。

横浜市立市民病院「病院機能評価の認定」

～ これからも質の高い医療を提供してまいります。 ～

横浜市立市民病院では、「横浜市立病院経営改革計画」にある「財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価」を5月25日に受審し、6月6日に財団法人日本医療機能評価機構から、認定証が交付されました。

1 病院機能評価について

質の高い医療を効率的に供給できることを目的として、厚生労働省などが中心となって設立した財団法人 日本医療機能評価機構により評価を受けます。

評価の対象領域は、病院業務の全てにわたり、現在(4月25日現在)全国で1,595の病院が認定を受けています。

認定は、本市が開設する病院では、横浜市立大学附属の2病院に次いで3番目ですが、市立病院としては初めてとなります。

2 病院機能評価のポイント

- ・病院組織の運営と地域における役割
- ・患者の権利と安全の確保
- ・療養環境と患者サービス
- ・診療の質の確保
- ・看護の適切な提供
- ・病院運営管理の合理性

3 認定取得までの経過

- 平成16年1月 病院全体で実施する体制を構築
渡辺副病院長(現病院長)をチェアパーソンとし、全ての職種が参加
- 平成16年6月 受審
- 平成17年5月 受審
- 平成17年6月 認定

4 認定による効果

➡ 安全性の証明

日本医療機能評価機構という第三者機関の認定により、事故防止への取組みなどが他の病院との比較においても一定のレベルに達していることが証明されました。

➡ 看護師受験者数の確保

認定により、新卒者や看護学校の在學生などの評価が上がり、受験者数が確保される

- ことが期待されます。
- ▶ 病院従事者の一体感
病院には、多数の職種が従事していますが、今回の受審を準備していく過程で、病院全体に一体感が生まれ、今後のチーム医療のさらなる推進に寄与しました。
 - ▶ 業務の見直し
受審を準備していく段階で、病院長を含む全ての幹部職員が、全部門と面接を実施し、非効率となっていた業務手順などを改善することができました。
 - ▶ 医師の責任感の醸成
今回の受審対策組織では、医長クラスの医師を中心に対策組織を構築したことにより、医師の責任感とモチベーションが上がりました。
 - ▶ 清潔感のある病院になったこと
廊下に置かれていた機材などの保管場所の見直しや、建築後20年近く経過し、壁などは全体に黒ずんだ感じでしたが、今回をきっかけに清掃などを強化し、きれいな病院になりました。
 - ▶ 禁煙対策の実施
今までは、院内で分煙としており、院外であればどこでもタバコの喫煙が可能でしたが、患者さん用の喫煙場所を正面玄関脇に、職員の喫煙場所も院内一箇所に限定いたしました。
 - ▶ 収支の改善
これらが総合的に作用し平成15年度は、約2億9千万円の黒字となり、平成16年度も引き続き好調を維持しています。
平成17年度以降も認定をきっかけに、良好な経営を続けるよう努めてまいります。

5 今後の取組

今回の病院機能評価の認定取得は、今までよりもさらに質の高い医療を提供するための出発点であると認識しております。

認定取得に満足せず、いつどのような時に審査を受けても大丈夫なように維持するとともに、医療の進歩にあわせた改革に常に努めてまいります。

これにより、他の病院から目標とされる病院になるように努力し、市民や患者さんの立場に立って、安心・安全・満足が得られる良質な医療サービスを効率的に提供します。

平成17年度は、ISO14001の取得準備、平成18年度の認定を目指します。

平成17年3月16日開催の市民委員会での意見への対応について

委員からの意見	病院の対応																							
<p>1 決算の推移について</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <table border="1" data-bbox="413 510 1331 707"> <thead> <tr> <th></th> <th>12年度</th> <th>13年度</th> <th>14年度</th> <th>15年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業収益</td> <td>15,099,120</td> <td>13,888,408</td> <td>13,738,102</td> <td>13,970,544</td> </tr> <tr> <td>事業費用</td> <td>15,855,947</td> <td>14,724,828</td> <td>14,225,639</td> <td>13,674,349</td> </tr> <tr> <td>経常収支</td> <td>756,827</td> <td>836,420</td> <td>487,537</td> <td>296,195</td> </tr> </tbody> </table>		12年度	13年度	14年度	15年度	事業収益	15,099,120	13,888,408	13,738,102	13,970,544	事業費用	15,855,947	14,724,828	14,225,639	13,674,349	経常収支	756,827	836,420	487,537	296,195				
	12年度	13年度	14年度	15年度																				
事業収益	15,099,120	13,888,408	13,738,102	13,970,544																				
事業費用	15,855,947	14,724,828	14,225,639	13,674,349																				
経常収支	756,827	836,420	487,537	296,195																				
<p>2 外来の待ち時間、呼出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクの呼出 ・科によって違う対応 ・待合いで横になりたい人もいる ・時間表示、番号表示があるといい ・ポケベル呼出システムの導入 	<p>外来会計窓口をはじめ病院内全科的に、原則としてマイクを使用して、呼び出しは行わないようにしました。</p> <p>整形外科等一部診療科の待合い椅子の一部に、横になることも可能な長いすを配置しました。また、体調がすぐれない患者さんの場合には診療科の処置室等で横になれるように対応しております。</p> <p>皮膚科、小児科等一部の診療科で、現在、何時の予約の方の診療を行っているか、また、何番に受け付けた方の診療を行っているかの表示をしております。実施状況を見て、他の診療科でも表示について検討していきます。</p> <p>ポケベル呼び出しシステムにつきましては、費用面の調整もあり、当面对応は困難ですが、今後検討させていただきます。</p>																							
<p>3 接遇について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇はトップの指導が重要 ・患者に対する幼稚語の使用はさけるべき、教育が重要 	<p>必要に応じて、病院長、副病院長、診療科部長等が、また外部講師を依頼し、接遇研修を行っております。</p> <p>今後も委託業者への指導も含め、各所属において、接遇に関する研修を行ってまいります。</p>																							

<p>4 ボランティアについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアをどう評価しているのか ・善意銀行からの助成等はないのか。 ・交通費420円は安い 	<p>当院のボランティアに対する評価は、院内、院外でも評価は高く、人間的にも今年度になってから増員されて積極的に活動していただいております。</p> <p>また、当院のボランティア活動は、地域福祉活動団体や障害当事者団体等の団体活動ではなく善意銀行からの助成にはなじみません。</p> <p>ボランティアの交通費につきましては、値上げするのは困難です。</p>
<p>5 インフォメーション等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番重要な顔、だめな職員がいたらすぐ交換すること ・診療申込書の記載台に椅子がない ・受付の教育も必要 	<p>医事課の窓口職員につきましては、患者対応等に問題があった場合は、注意を行い改善してまいりました。それでも患者対応になじまない職員につきましては、配置換えをいたしました。</p> <p>現状の診療申込書記載台は立ち書き用の高さであり椅子を配置すると高すぎてしまうため、別途低い記載台の配置を新患、再来、会計窓口全体のレイアウト変更にあわせて検討しているところです。</p> <p>受付職員へ接遇研修等を随時実施しています。</p>